解析学2 解答例

2019.05.27

■ 次の問いに答えよ.

(1) 実数 x, y に対して関数 d(x,y) を $d(x,y) = \frac{|x-y|}{1+|x-y|}$ とするとき、任意の x, y, z に対して

(D1)
$$d(x,y) \ge 0$$
; $d(x,y) = 0 \Longleftrightarrow x = y$

(D2)
$$d(x,y) = d(y,x)$$

(D3)
$$d(x, z) \le d(x, y) + d(y, z)$$

が成り立つことを示せ.

(2) 関係式 $\lim_{p \to +\infty} \| \boldsymbol{x} \|_p = 1$ をみたす $\boldsymbol{x} \in \mathbb{R}^2$ を図示せよ.

(解) (1) 関数 d(x,y) の定義より、(D1)、(D2) が成り立つことは明らかであるから、(D3) のみ示せばよい、関数 f(x)=x/(1+x) が $x\geq 0$ において単調増加であり、三角不等式 $|x-z|\leq |x-y|+|y-z|$ が成り立つことから、

$$d(x,z) = \frac{|x-z|}{1+|x-z|} \le \frac{|x-y|+|y-z|}{1+|x-y|+|y-z|} = \frac{|x-y|}{1+|x-y|+|y-z|} + \frac{|y-z|}{1+|x-y|+|y-z|} \\ \le \frac{|x-y|}{1+|x-y|} + \frac{|y-z|}{1+|y-z|} = d(x,y) + d(y,z)$$

が得られ, (D3) が成り立つ.

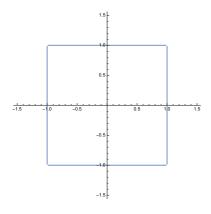
(2) $\mathbf{x} = (x_1, x_2, \dots, x_n) \in \mathbb{R}^n$ に対して $M = \max(|x_1|, |x_2|, \dots, |x_n|)$ とすると、

$$M^p \le \sum_{k=1}^n |x_k|^p \le n M^p, \qquad
eg \sharp \, \emptyset \,, \quad M \le \|\mathbf{\textit{x}}\|_p \le n^{1/p} \, M$$

が成り立つ. $\lim_{p\to+\infty} n^{1/p} = 1$ と挟み撃ちの原理により

$$\lim_{p \to +\infty} \| \mathbf{x} \|_{p} = M = \max(|x_{1}|, |x_{2}|, \cdots, |x_{n}|)$$

が得られる.



上図は与えられた関係式をみたす $\mathbf{x} = (x, y) \in \mathbb{R}^2$ を図示したものである.